

RPI主催フォーラム 実例から！ 地域を元気にする図書館を考える

株式会社アール・ピー・アイは、図書館界の皆様とともに、地域をさらに盛り上げていくため、2025年も図書館総合展に出展しました。

図書館は、地域に根ざした知と情報の蓄積・提供の場であるとともに、人々が交流し、新たな価値を生み出す拠点としての役割を担っています。こうした機能は、単なる情報提供にとどまらず、地域の活力を生み出し、「地域を元気にする」原動力となります。いま、多くの地域が人口減少やコミュニティの希薄化といった課題に直面するなかで、図書館には多様なサービスが期待され、地域を元気にする拠点としての役割はますます重要になっています。

こうした背景を踏まえ、データから裏付けられた図書館満足度の高い自治体の館の、地域の状況に応じた取組を紹介いただき、参加者とともに、「地域を元気にする図書館」を考えるフォーラムを企画いたしました。

※このレポートは2025年11月14日に実施したフォーラム内容をRPIがまとめたものです。

— パネリスト —



守屋 慎一郎 氏

合同会社企画室 代表
スパイラル/株式会社ワコールアート
センター プランナー
イベント学会理事・副事務局長

1972年、熊本県生まれ。展覧会、アートフェスティバル、文化施設の管理運営など、現代アートを軸に、地域活性化事業、都市開発事業のプランニング、プロデュースに取り組む。太田市美術館・図書館では、運営基本計画・実施計画・総合ディレクションを担当。ほかに、横浜市「象の鼻テラス」運営計画、松山市「道後オンセナート2014」実施計画及びアートプログラム企画制作など実績多数。



花井 裕一郎 氏

演出家、
一般社団法人日本カルチャー
デザイン研究所理事長

1962年、福岡県生まれ。テレビ番組演出経験を活かし、図書館を中心としたまちづくりの演出、人が集いワクワクする空間づくりを行っている。2009年から2012年まで初代館長を務めた小布施町立図書館まちとしょテラソンは、Library of the Year 2011大賞を受賞。太田市美術館・図書館では図書ディレクターとして、準備段階から図書事業の構築を担当。その他、図書館やまちづくりに関するアドバイザーやワークショップ講師等の実績多数。全国の図書館づくり、まちづくりに携わる。

— プレゼンター —



基山町立図書館
館長 城本 直子 氏

2016年に、公園と一体となったパークライブラリーとして開館。町民との意見交換会を重ねて建てたアカデミックな空間で、読書や仕事、持込み学習ができる場もある。「まちのリビング」のような居心地の良い図書館を目指している。



小牧市中央図書館
図書係長 花里 千賀子 氏

2021年に新館オープン。貸出中心の図書館ではなく、ゆったり過ごせる「居心地の良い滞在型の図書館」を目指している。2021年にグッドデザイン賞を受賞した。

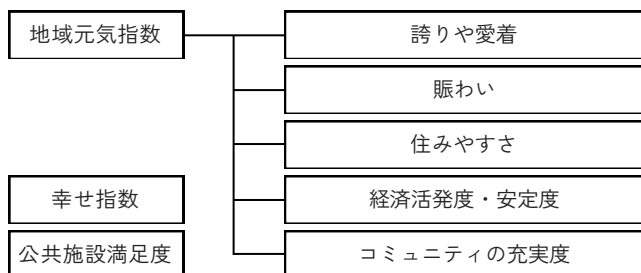
1. はじめに

地域元気指数調査について

全国には、気候風土に根ざした暮らし、住人が誇りと愛着を感じる情景など、その土地ならではの個性や特徴もつ多様な地域が形成されています。株式会社アール・ピー・アイは、全国に多様で活気にあふれた地域が存在し続けることこそが、日本の魅力と豊かさを支え、これからの社会の元気や幸福をつくると考え、地域の元気を増幅できるような施策や取組を明らかにし、地域の元気や個人の幸福度を高めることを目的に「地域元気指数調査」を2016年より毎年実施しています。

この調査では、回答者に自分の地域の元気がどのくらいか、10点満点で評価してもらいます（地域元気指数）。さらに5つの分野を設定し、各分野に紐づいた50の指標について、それぞれ当てはまると感じるかどうか、5段階で評価してもらいます。また、回答者自身がどのくらい幸せだと思うか、10点満点で評価してもらいます（幸せ指数）。さらに、2022年からは、自分の地域の公共施設の満足度についても評価してもらっています。

図1. 地域元気指数調査



公共施設満足度のうち、地域の「図書館の満足度」について、下記の項目を住民に聴取しました*。

あなたが暮らしている地域について、どの程度当てはまりますか。お考えに近いものを選んでください。

【図書館に満足している】（単一回答）

- 当てはまる
- やや当てはまる
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない
- どちらともいえない

この結果、佐賀県基山町と愛知県小牧市は、過去の調査で一貫して全国平均を上回る図書館満足度を記録したことから**、フォーラムのプレゼンターとして登壇いただきました。

【地域元気の評価50項目】

この地域ならではの歴史や伝統行事がある
この地域ならではの生活文化や郷土料理などがある
自然が豊かな土地である
大切に守り続けたい地域資源がある
他の地域の人にこの地域のことがよく知られている
この地域のことが話題になっている
地域のことを深く知ったり学んでいる
人に自慢したい地域のモノ・コトがある
新しいものを受け入れる風土がある
地域内の経済循環や環境保全など、持続可能な取組がおこなわれている

地域の商店(街)に活気がある
地域に楽しめる場所がある
音楽や文化・芸術活動が盛ん
スポーツが盛ん
地域内に新しいお店や新しい施設が増えている
地域内で若い人の姿を多く見かける
新しく越してくる人・移住してくる人が増えている
国内の観光客・旅行者が増えている
外国人観光客・旅行者が増えている

生活環境で困ることが少ない
買い物しやすい
公共施設(図書館やコミュニティセンター等)や公園が充実している
犯罪や事故が少ない
街がきれい
交通利便性が高い
地域防災等の仕組みが機能している
子育て環境や教育環境が整っている
病院・医療体制が整っている
障害や貧困など、生活に不自由を感じる人への支援が整っている
行政サービスが充実している
行政の首長や職員が熱意をもって仕事をしている

地元で買い物をする人が多い
地域外から買い物に来る人がいる
地域外からの来訪者・観光客が多い
地域内に働く場が多い
地域内に基幹的な産業がある
地域内に多種多様な産業・事業所がある
地域を代表する特産品がある
新しい住宅やマンションが増えた
再開発などで街が変化し地域が魅力的になった

地域内に知り合いや仲間が多い
地域の祭りやイベントが盛ん
新しいイベントができた・地域の祭りが復活した
地域が一体となって取り組んでいることがある
他地域との交流が盛ん
国籍・性別・文化などの違いを問わず、多様な価値観・生き方が尊重されている
住民によるコミュニティ活動が盛ん
地域のために頑張っている人が多い
子どもが多い
高齢者がいきいきしている

* 回答者が暮らしている地域（基礎自治体）の図書館全体について、回答を依頼しています。居住する地域内に図書館が複数ある場合には、回答者によって、思い浮かべる図書館が異なる可能性があります。回答者は自身の居住する地域の図書館についてのみ満足度を回答しており、全国の図書館を網羅的に比較し、評価した結果ではありません。

**地域（基礎自治体）ごとの結果であり、個別の図書館についての結果ではありません。

2. 佐賀県基山町について

地理となりたち

基山町は佐賀県の東端に位置し、福岡県筑紫野市、小郡市に隣接しており、県の東の玄関口となっています。1889年に、小倉・長野・園部・宮浦の4ヶ村が合併して基山村が成立し、1939年の町制施行により基山町となり、現在に至っています。

産業と発展

九州自動車道や鳥栖筑紫野有料道路の開通で交通拠点となる。高度経済成長とともに、町内への企業進出が進み、現在は35社超の工場が立地し、物流・産業の要地となっています。高島団地やけやき台など大規模住宅団地が次々開発され、人口増加と都市基盤整備が進みました。

歴史

7世紀には、日本で最初の本格的な朝鮮式山城である基肄城（きいじょう）が築かれ、大宰府の南北を守る軍事拠点として重要な役割を果たしました。その後の時代の変遷を経て、江戸時代には佐賀藩ではなく対馬藩田代領に属し、宗氏の治政下に置られました。町内には、奈良時代の高僧・行基による創建と伝わる大興善寺があり、現在では「つつじ寺」の愛称で親しまれています。

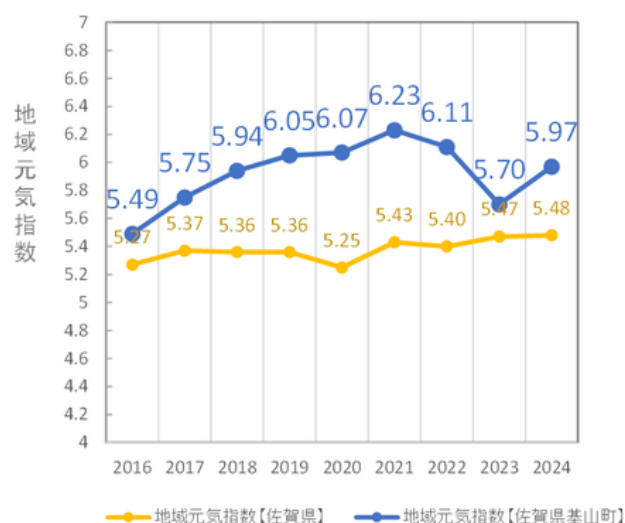
スポーツ・文化

スポーツ振興が盛んで、野球や柔道などで全国優勝経験者やプロ選手を輩出しています。文化面では、町民主体の創作劇や文化遺産の調査・解説活動が続き、2017年度、2019年度には明治維新150年を記念し、対馬市との交流事業で小中学生が歴史・文化交流を行いました。

地域元気指数調査の結果

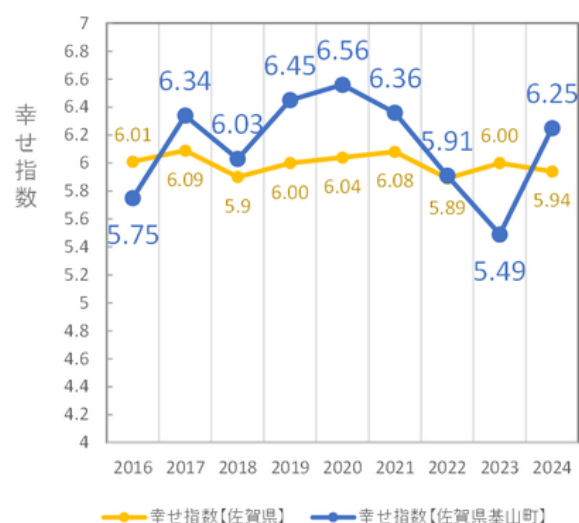
調査の結果、地域元気指数は県平均と比べて高い傾向にあることがわかります。

図2. 基山町の地域元気指数の推移



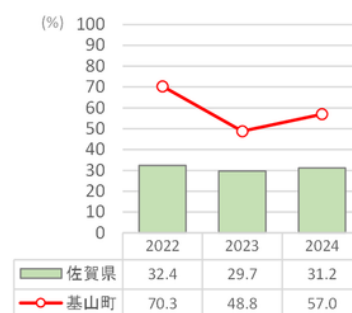
また、幸せ指数も2016年と2023年を除き、県平均より高い値で推移しています。

図3. 基山町の幸せ指数の推移



図書館満足度の結果は、過去3年とも県平均より高く、2022年では40ポイント近く差があります。

図4. 基山町の図書館満足度の推移



3. 基山町立図書館の取組

図書館の概要

基山町立図書館は2016年に、公園と一体となったパークライブラリーとして開館しました。町民との意見交換会を重ねて建てたアカデミックな空間で、読書や仕事、持込み学習ができる場もあります。

名称	基山町立図書館
延床面積	1,185㎡
開館年	2016年
蔵書点数	126,456点
注力している取組 (24年フォーラムアセットより)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・親子向けサービス ビジネス支援サービス 長く滞在できる環境づくり
館内の主な機能	<ul style="list-style-type: none"> 郷土資料コーナー ティーンズコーナー 多目的室 キャマラウンジ お話の部屋 雑誌コーナー 読書の丘 児童コーナー 一般コーナー ブラウジングコーナー ビジネス支援コーナー

図5. 基山町立図書館の立地



ここからは、基山町立図書館について、住民の高い図書館満足度につながっていると思われるサービスや取組について、館長の城本氏にお話をいただきました。

基山町立図書館の取組

基山町立図書館 館長
城本 直子 氏

運営方針と根拠となる計画について

図書館のサービスの方向性が決まる計画として、基山町条例のほか、町の最上位計画である「基山町総合計画」があります。この中にいかに図書館を盛り込むかが今後10年間の方向性を決めることになり、利用者の満足度につながる資料費や、来館につながる事業費の獲得の根拠となる計画になるよう盛り込んでいます。

第6次の総合計画では図書館DXの検討推進などを盛り込んでおり、総合計画を推進するために「図書館サービス計画」や「子供の読書推進計画」があり、これらを根拠に様々な事業を実施できています。

町長部局が所管することの強み

図書館は教育長部局ではなく町長部局が所管しています。その強みは、「スピード感」です。町長と直かに話ができることで、現場からの要求が伝えやすいです。また、館長が管理職として庁議や議会の本会議にも出席するため、町の方向性が分かるとともに、教育学習課やこども課、福祉課などと情報が共有でき連携しやすいことも強みです。

新しい図書館のコンセプトと町民との協働

2016年3月に策定した現図書館のサービス計画のコンセプトは「町の文化的情報（知・学・交流）～「人づくり」・「まちづくりをサポート」」であり、図書館が、文化的な生活環境向上のための情報の場、郷土の歴史に関する情報の場、生涯学習の場、町民の交流の場を担うということです。

町民の方々とワークショップや意見交換会を何度も重ねたため、皆さん「自分の図書館が建った」と思ってくださっているようで、開館セレモニーには400名を超えてお集まりいただきました。

8年連続日本一の実績と利便性の良さ

2016年のオープン以来、人口2万未満の町村図書館における館外個人貸出数が「8年連続日本一」となりました。利用者の皆様にお借りいただいた1冊1冊のおかげだと思うととても嬉しいです。

利用者が多い要因の1つは、図書館の「利便性の良さ」だと考えています。町内唯一の公立中学校の北側で通いやすい場所であり、買い物や病院などの生活動線から考えても、まちの中心部である現在の場所ということになりました。図書館は通いやすい場所にあるこそという考えです。

子どもへのサービスと移住定住への貢献

少子化と言われる中でも子どもの利用（児童の貸し出し）が減っていないことは事業の実績と考えています。町自体の人口も横ばいで減少していません。町が移住定住に力を入れていて、移住された方のアンケートに「魅力ある図書館」との記載があり、魅力あるまちづくりに一役買っています。

特に子どもの読書環境の整備には力を入れています。セカンドブック事業では町長が読み聞かせを行い、町の選定図書から児童が希望する1冊を図書館通いバッグ（町内のB型障害者施設がデザインし、ボランティアの方、職員とともに刷り作業したもの）と共に手渡しています。

イベント・展示事業と学校連携

多世代が交流するイベント、学びの機会を創出する事業を行っており、特に子どもを対象とした企画事業は大切にしています。小中学生が対象の基肆城（きいじょう）絵はがきコンクールでは、参加した全員の絵はがきを図書館に展示することで、保護者や地域の方の来館につなげています。

小学3年生の社会科の1コマを図書館で引き受け、郷土資料や古い写真を使って授業をしています。中高へも依頼があればゲストティーチャーとして訪問します。ほかにも中高の職場体験やインターンシップ、大学の図書館実習を受け入れて図書館の味方・理解者を増やしています。

レファレンス業務とビジネス支援

レファレンスは県立図書館や国立国会図書館に支援をお願いすることもあり、佐賀県司書ネットワークも強い味方です。レファレンスやリクエストは利用者のニーズを知る機会、分からないことを「分かりません」ではなく、利用者が何を求めているかをしっかり聞き取り、寄り添い、求める情報につなげることを大切にしています。

図6. 基山町立図書館の外観（図書館のウェブサイトより）



ビジネス支援にも力を入れており、無料職業紹介所と連携した案内や求人情報の設置をしています。また、基山町商工会への団体貸し出し、登録者への「ビジネスメールマガジン」の配信（仕事に役立ちそうな本の紹介など）を行っています。

ボランティアの協力と職員の工夫

ボランティアの方は図書館の強い味方です。少ない職員で多くの事業が行えているのもボランティアさんのおかげであり、やりがいや生きがいにつながればと考えています。ボランティアの方に支えられ、おはなし会の開催や、「としょかんだより子ども版」の配布などを行っています。

図書館職員の工夫としては、多くの本と出会っていただくため季節や話題に合わせた展示に力を入れています。「お楽しみ福袋」や「本のお菓袋」など、司書がセレクトした本は自分では選ばない本との出会いになっているとの声を頂いています。

滞在型の図書館としての空間づくり

本の貸し出しのみでなく、滞在型の図書館、「あなたの居場所がある図書館」として、公園の木々が見える居心地の良い「ブラウジングコーナー」や、パソコ

ン学習・仕事用にコンセントやWi-Fiを備え、桜並木を望む「カウンター型の閲覧席」、小さな子どもとゆっくり本を選べる「お話の部屋」が人気となっています。

町民からの評価と今後の展望

アンケートや視察の報告書では、「徹底した利用者目線」「自分の図書館という町民の思いを感じる」「どの世代にも居場所がある」「世代を超えた関わりが生まれる」などの評価をいただいています。

地域の学びの地の拠点、交流の拠点として、生活に寄り添う図書館であり続けたい、地域を元気にする図書館であり続けられたらと考えています。基本的な小さな取り組みや工夫が貸し出しや利用者満足度につながっていると思います。

公園・読書のおかと一体となった取組

図書館利用のきっかけにつながるイベント、例えばダンスパフォーマンスやアップサイクルマーケット、本の交換会等を、公園内読書のおか周辺で、ボランティア団体等と行っています。開館記念の周年イベントや夜の図書館を楽しんでいただく竹あかりナイトin図書館等も好評です。

図7. 基山町立図書館の内部（発表資料より）



4. 愛知県小牧市について

地理となりたち

小牧市は名古屋市の北方約15キロメートル、濃尾平野のほぼ中心に位置します。1955年に小牧町・味岡村・篠岡村が合併し、市として誕生しました。1963年に北里村を編入し、現在の市域となり、2025年に市制施行70周年を迎えました。

産業と発展

伊勢湾台風（1959年）からの復興を契機に、農業中心から工業都市への転換が推進されました。名古屋空港や名神・東名・中央の3大高速道路の結節点に位置することから、交通要衝として発展し、中部の中核的な内陸工業都市となりました。愛知県が事業主体となり、桃花台ニュータウンを新住宅市街地開発事業として整備し、2001年には名古屋高速11号小牧線が開通し、名古屋都心部とのアクセスがさらに向上しています。

歴史

市の象徴である小牧山は、1563年に織田信長が築城した地で、春の桜、夏の深緑、秋の紅葉、そして冬の雪化粧と、四季折々にその姿を変え、市民に憩いと安らぎを与えています。豊臣秀吉と徳川家康が戦った「小牧・長久手の合戦」の舞台でもあり、1927年には国の史跡に指定されました。

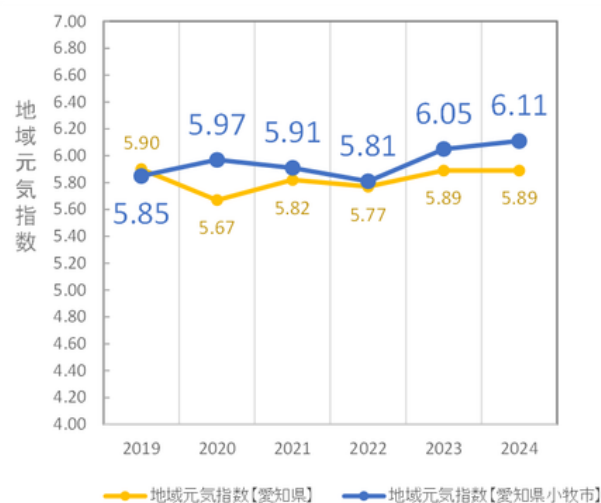
文化

田縣（たがた）神社の豊年祭、ゴッホ、ピカソをはじめ、大観、劉生ら内外の高名な画家の作品収蔵で知られるメナード美術館など、古い歴史と豊かな文化の街です。市内最大のイベント「小牧市民まつり」や真夏の夜を彩る「こまき令和夏まつり」など、市民の交流と地域の賑わいを生む催しが毎年開催されています。

地域元気指数調査の結果

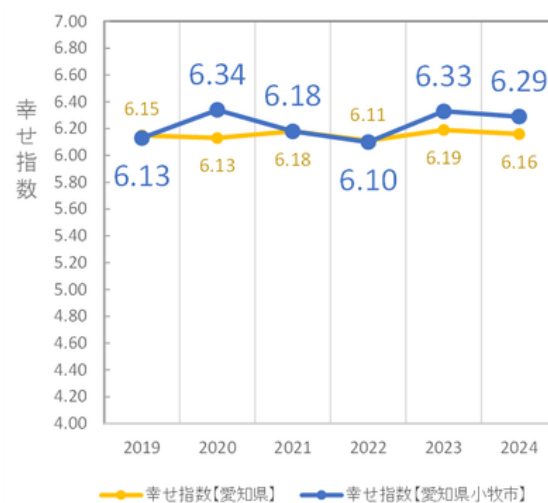
調査の結果、地域元気指数は県平均と比べて高い傾向にあることがわかります。

図8. 小牧市の地域元気指数の推移



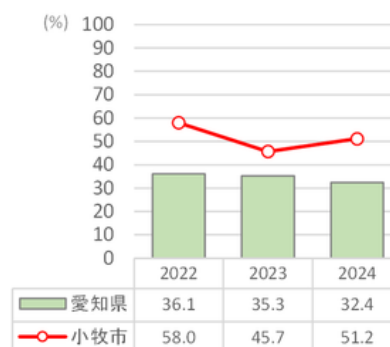
また、幸せ指数も2016年と2022年を除き、県平均より高い値で推移しています。

図9. 小牧市の幸せ指数の推移



図書館満足度の結果は、過去3年とも県平均より高く、2022年では20ポイント以上の差があります。

図10. 小牧市の図書館満足度の推移



5. 小牧市中央図書館の取組

図書館の概要

小牧市中央図書館は、2021年に新館オープンしました。貸出中心の図書館ではなく、ゆったり過ごせる「居心地の良い滞在型の図書館」を目指しています。2021年にグッドデザイン賞を受賞しています。

名称	小牧市中央図書館
延床面積	6,378.79 ㎡
開館年	2021年
蔵書点数 (R7.3)	約15.4万点 (開架)、約15.8万点 (閉架)
注力している取組 (24年フォーラムアンケートより)	<ul style="list-style-type: none"> レファレンスサービス 地域関連資料の充実 長く滞在できる環境づくり
館内の主な機能	<ul style="list-style-type: none"> 情報交流コーナー (1F) 雑誌コーナー (1F) イベントスペース (1F) 児童図書エリア (1F) おはなしのへや (1F) ティーンズ図書エリア (2F) 雑誌コーナー (2F) サイレントルーム1 (2F) ボランティア活動室 (2F) 一般図書エリア (3F) 雑誌コーナー (3F) サイレントルーム2・3 (3F) 個人ブース (3F) グループワークルーム (3F) 一般図書エリア (4F) 雑誌コーナー (4F) 参考図書エリア (4F) 郷土資料エリア (4F) ビジネス情報コーナー (4F) 読書バリアフリーコーナー (4F) 公開書庫 (4F) サイレントルーム4 (4F) 研究個室 (4F) 多目的室 (4F) 対面読書室 (4F)

図11. 小牧市中央図書館の外観



ここからは、住民の高い図書館満足度につながっていると思われるサービスや取組について、小牧市中央図書館、図書係長の花里氏にお話をさせていただきました。

小牧市中央図書館の取組

小牧市中央図書館 図書係長
花里 千賀子 氏

移転の経緯と施設概要

2021年3月27日にオープンし、今年で5年目を迎えます。旧図書館は老朽化や狭隘化が進み、建て替えが検討されていました。市の目標として「中心市街地を活性化しよう」と掲げていたため、駅前の中心市街地に新しく図書館を移転しオープンしました。

床面積は約6,300平米、蔵書の収蔵可能数は合計50万点です。来館者が様々にくつろげるよう、多種多様な座席を館内に約675席（屋外テラス75席含む）を配置しています。

市民と共に作り上げた図書館

図書館の満足度が高い要因として、建設の頃から「市民の方と共に作り上げた図書館」であることが挙げられます。設計段階から市民アンケート調査を実施したほか、中学生や高校生を対象に「親しまれる図書館を目指して」をテーマとしたスクールミーティングを開催しました。

幅広い年代やボランティア、市民活動団体を中心とした市民ワークショップも行い、図面や模型を実際に見ながら、市民の生の声をしっかりと丁寧にすくって設計・建設を進めたのが特徴です。

コンセプト「居心地の良い滞在型の図書館」

新しい図書館に求められた意見の中で最も多かったのが「居心地の良さ」でした。求めるスペースとしては、ゆっくりくつろいで閲覧できるスペース、カフェや飲食スペース、学習室といった意見が多く、求める機能としては、多種多様な座席（1人がけ席を多く）、Wi-Fi環境完備、最新ICT機器の導入といった声が多くありました。こうした結果を踏ま

え、これまで図書館に親しみがなかった人たちも惹きつけ、時代のニーズにあった「居心地の良い滞在型の図書館」が出来上がりました。

居心地の良さにつながる取組

居心地の良さにつながる特徴的な取組として、多種多様な座席を備えるとともに、館内のどこでも利用できるWi-Fi環境を整備しています。さらに、全体のうち約230席にはパソコンやスマートフォンを利用しやすいよう電源コンセントを設けており、学習や仕事、情報検索など多様なニーズに対応しています。

また、1階には行き来しやすい場所にカフェスペースを併設しており、公募によりスターバックスコーヒーショップが来店しています。図書館とカフェが緩やかにつながることで、滞在型の利用を促す空間構成となっています。図書館の北側にある「にぎわい広場」にはキッチンカーが多く来店し、図書館の賑わいが中心市街地にもしっかり波及しています。

さらに、「賑わいのある図書館」というコンセプトのもと、館内ではリラックス効果や会話音を中和する効果を意図したBGMを流し、一定の音を容認する運営を行っています。一方で、静かに読書や学習

に集中したい利用者のために、合計107席のサイレントルームや個人ブースも設け、利用目的に応じた環境を選択できるよう配慮しています。

利用のしやすさにつながる取組

中心市街地の活性化を図ることを目的に、利用者登録要件を、市内外を問わず全国に拡大しました。

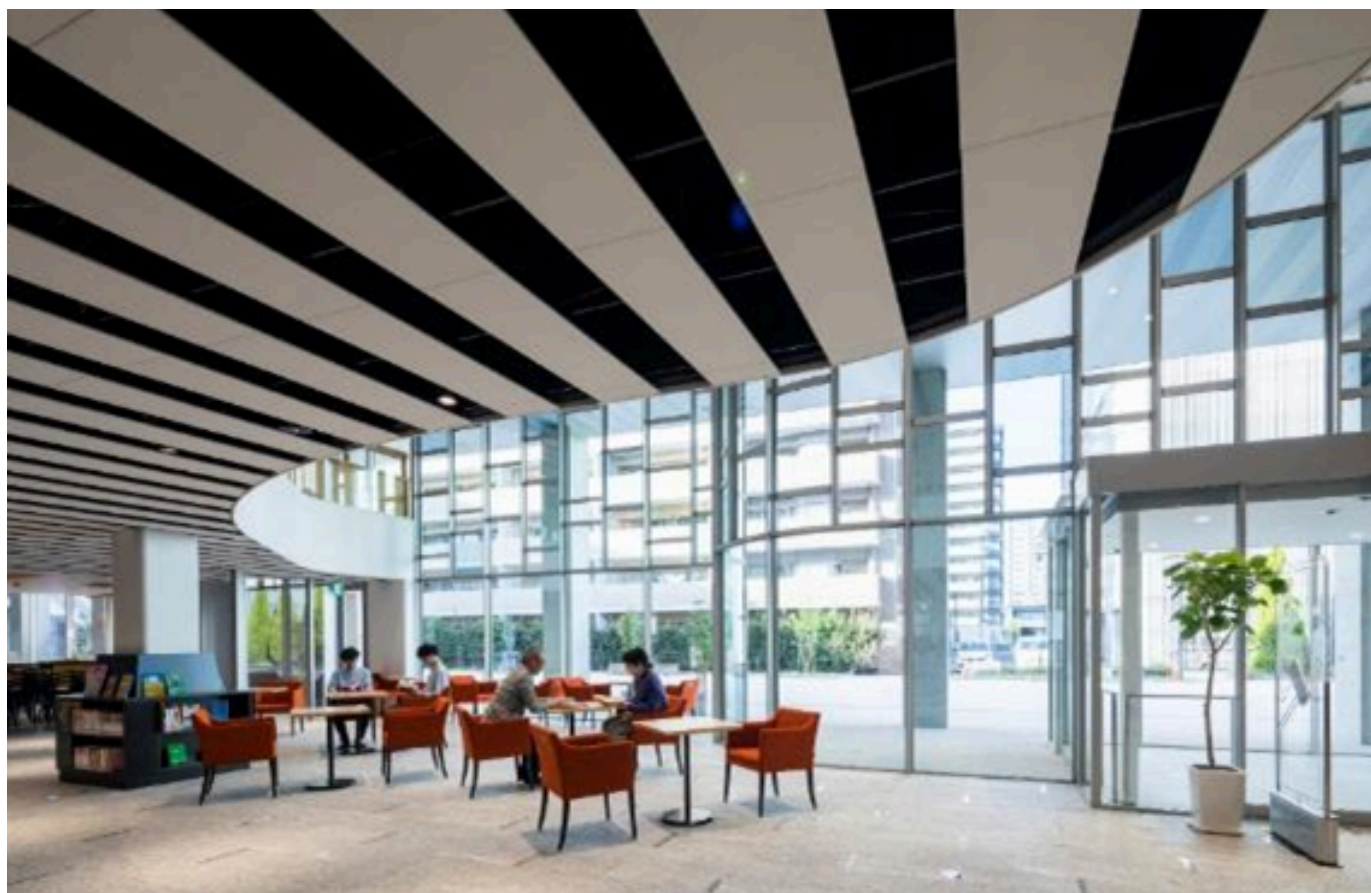
また、時代のニーズに合わせ、マイナンバーカードを利用者カードとして使用することができるサービスと、スマートフォンに利用者カードのバーコードを表示させ、利用者カードとして使用することができるサービスを行っています。

さらに、ICタグを導入し、スタッフを通さずにご自身で手続きができる「自動貸出機（14台）」や、本を入れるだけで処理される「自動返却機（3箇所）」を設置しています。カウンターに行かなくても自身で予約本を取りに行ける「予約本受取コーナー」を設置し、利便性を高くしています。

ほかにも、座席予約システム、デジタルサイネージ、電子図書館、郷土資料をweb上で公開する「こまきデジタルコレクション」も導入しています。

1階の共用部（エントランス部分）はカフェの開店時間に合わせて朝8時から開館しており、出勤前にコーヒーと本を片手にくつろぐ、ビジネスマンの姿もよく見られます。

図12. 小牧市中央図書館の内部（発表資料より）



1階には可動式の壁「スライディングウォール」を備えたイベントスペースがあり、開放的なイベント空間としての利用も、仕切ることによって部屋としての利用も可能になっています。

イベントスペースの活用

イベントスペースは、当館の強みである立地の良さや、カフェのある居心地の良い空間という開放的な雰囲気から、ふらっと通りかかった方でもイベントに参加しやすく、結果的に幅広い層にアプローチできています。

イベントスペースでは、市主催イベントの他、建設の頃から協働してきた市民団体とのイベントも行っています。イベントを通じて利用者みなさんに思いもよらない出会いや学びのきっかけを提供できるとともに、市民団体の表現の場として主体的な社会参加を促し、にぎわいの創出にもつながるため、開館当初からさまざまなイベントを積極的に開催・誘致しています。

また、今年は市制70周年のため、市ではふるさとカルタをオリジナルで作りました。9月には大判に印刷したふるさとカルタをスライディングウォールに展示し、多くの方に郷土に親しんでもらうきっかけづくりとしています。

図13. にぎわい広場（発表資料より）

ボランティアとの連携と工夫

読み聞かせのボランティアの方が11グループ活動しています。1階の児童エリアにある「おはなしのへや」は、設計段階からボランティアの方の要望を取り入れ、読み聞かせの演出に合わせて明るい昼白色から暖色系のオレンジ色の光まで調整できる「調光調色機能」をつけています。

相乗効果による高い実績と満足度

居心地の良さという施設面だけでなく、図書館としての機能面の充実にもしっかり取り組んでおり、資料の貸出は年間120万点以上、レファレンスは1万件以上の実績があります。

これらの取組が相乗効果を生むことで、年間来館者数は市の人口（約14万8,000人）を大きく上回る77万2,000人以上となり、満足度の高い人気のスポットとなっています。



6. ディスカッション

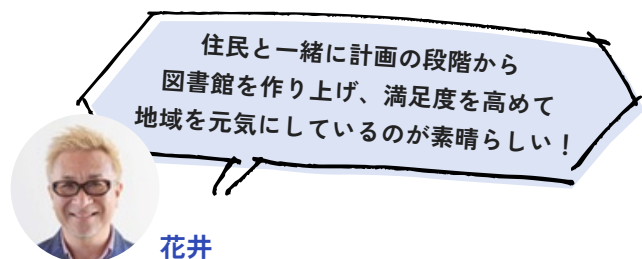
基山町立図書館と小牧市中央図書館の取組発表の後、パネリストの守屋氏の進行のもと、花井氏、城本氏、花里氏でディスカッションを行いました。また、会場からも随時質問をいただきました。議論した主なテーマは以下の通りです。

場づくりのためのイベント企画

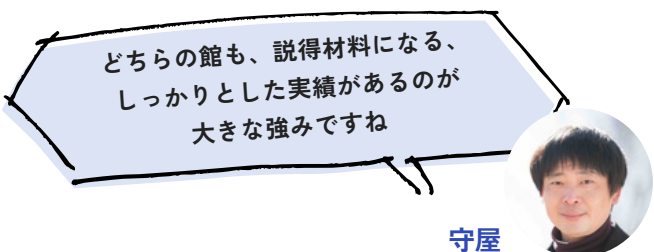
2館とも図書館の中の広場作りが充実。どういう企画立案や予算獲得、議会への説明をしてるんですか？

イベントの企画については、住民の団体との定例の運営委員会で企画のすり合わせや予算の役割分担を行ったり、職員が一丸となって、ニーズの洗い出しから企画立案をしつつ、ボランティアの定例会に参加して打ち合わせをして進めたりしているといった話が出ました。

また、予算確保については、実際の利用者数や貸出数といった過去の実績をしっかりと根拠として示しながら、図書館がいかにもちづくりに役立っているか、親しまれる図書館として運営を続けるために予算が必ず必要であるかを直接説明することで、理解を得て予算を確保しているといった話が出ました。



花井



守屋

利用者ファーストの継続

圧倒的に利用者ファーストが徹底されていますね。持続していくために工夫されていることはありますか？

利用者ファーストを持続させるための工夫として、建設前から市民とコミュニケーションを重ねて「自分の図書館」という意識を持ってもらうこと、利用者の潜在的なニーズを丁寧に拾い上げること、常に新しいイベントの企画をすること、飽きさせない図書コーナーや開架書籍の更新を続けることなどが挙げられました。

また、人材育成については、人事異動で専門外の職員が配置されることもある中で、図書館がサービス業であることや施設のコンセプトを丁寧に伝え、利用者目線での対応ができるよう育成に努めているといった話が出ました。さらに、管理職自らがカウンターの外（館内）に出て、利用者の生の声を聞いたり、職員の動きや困りごとを直接把握したりするといった工夫についても語られました。

ボランティアの方との協働

ボランティアの方の自主性が尊重されてるなという印象を受けました。意識されてることはありますか？

ボランティア活動については、無報酬であるからこそ負担なく長く継続してもらえるよう、本人の好きなことややりたいことを中心に行ってもらい、ボランティア自身の自己実現や満足度につなげているといった話が出ました。

ICTの活用のメリット

デジタルサイネージなど、ICTの活用法の詳細や導入することによるメリットについて伺いたいです

デジタルサイネージの活用については、画面をタッチして新着本を表紙の画像で探せるようにしたり、よく読まれている本を自動で生成して表示したりしているほか、ペーパーレスの観点からイベント情報も流しているといった話が出ました。

さらに、郷土資料に親んでもらうため、昔の古地図と現代の地図を重ね合わせて地域の今昔を表現し、タッチすると史跡や施設の説明が出る機能も備えているといった話が出ました。

そして、ICTの活用に関連して、貸出や返却などの手続きを利用者自身で行ってもらうことで、限られた人材をレファレンスなどの人的支援が必要なサービスにしっかりと投入すると同時に、名札をつけた司書が館内を巡回（フロアワーク）して、不慣れな方への説明やフォローを行っているといった話が出ました。

利用されるお客様ができることは
やってもらって、職員でないとできない
サービスに注力できるといいですね



花井

デジタル化のメリットと、人と人との
コミュニケーションの良さを両方を
取り入れていらっしゃいますね



守屋

レファレンスの普及に向けて

レファレンスの価値を利用者の方に知ってもらい、利用につなげるために何が大切でしょうか？

ホームページなどでのPRに加えて、カウンターで待っているだけでなく職員が自らフロアに出て利用者に働きかける「アウトリーチ」を行うことや、口コミの力を活用することが大切であるといった話が出ました。

また、「何か困ったことがあれば声をかけてもらえれば回答につながる」という、利用者が気軽に相談できる仕組みづくりとその周知が重要であるといった意見も出されました。

若者世代の利用促進

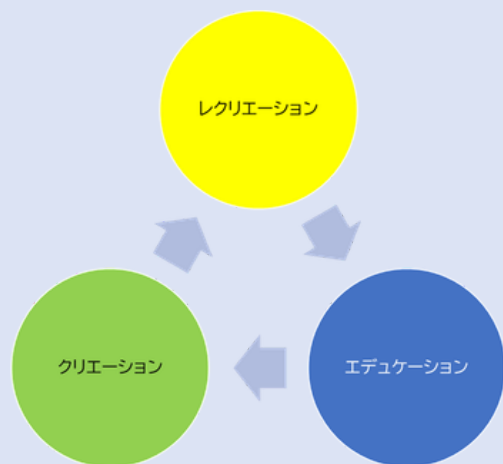
成長するにつれて図書館に行く機会が減り、読書や図書館から離れてしまう若者世代が多い印象です。

単に「本を読んで」と呼びかけるのではなく、夜間の図書館での「謎解き」や探検イベントなど、若者が気軽に行ってみようと思える企画を実施し、最終的に本（お宝）との出会いにつなげるといった、潜在的なニーズに合った新しい取り組みが紹介されました。また、仕事で悩んだ時に本で解決できるという幼い頃からの利用経験の積み重ねが重要であることや、Wi-Fiなどの環境を整え、家庭でも職場でもない「第3の場所（サードプレイス）」としての魅力をPRしていくことが足を運んでもらうきっかけになるといった話が出ました。

図書館機能の循環モデル

昨年のフォーラムで議論した、図書館機能の循環モデル（下図）に対し、ご意見を伺いたいです。

2024年のフォーラムで、「地域を元気にする図書館」とはどんな図書館か、ということ考えたとき、図書館の機能は基本的にはレクリエーションに基づいていながら、エデュケーションやクリエイション機能もあり、相互に循環するモデルなのではないかという議論がありました。



これら3つの機能のバランスが均等に取れていることが地域を元気にすることにつながり、どこか1つだけが特化しても難しく、バランスよく整うことで心地よい居場所として機能するといった話が出ました。また、この3つの機能の循環モデルに、さらに「イノベーション（革新）」と「インベスティゲーション（探求）」の2つを加えた、五角形のモデルになるとより良いのではないかといった話が出ました。

両館ともこの循環がうまく回っている図書館だと思います
五角形モデルもなるほど！

守屋

なぜ今、図書館に力を入れるのか

財政が厳しい中で、なぜ図書館に力を入れるのか。首長に目を向けてもらうには、どのような意見を届けばいいのでしょうか。

図書館は年齢や性別、国籍、障害の有無に関わらず誰もが無料で利用できる施設であり、不特定多数の全世代に行き届くサービスが提供できるため、効率よく税金の還元ができるといった話が出ました。

また、地域の課題解決の観点から、図書館が関係人口の創出につながることや、高齢者の外出を促すことで元気な高齢者や脳の活性化につながることで、さらには学校に行きづらい若者などのセーフティネットや居場所としても機能するといった話が出ました。

さらに、図書館の敷居をまたげば誰でも自由になれる環境が重要であり、生涯学習の拠点である町の中核施設が元気であることが、ひいては地域全体の元気につながるという意見も出されました。

不登校や学校に悩みがある子が
図書館ではとても元気になると見ると
環境ってすごく大事だと思っています

花井

両館とも「集まる場所」の重要性が
感じられました。図書館は新しい広場の
1つなんだろうなと思いました

守屋

このレポートに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社アール・ピー・アイ

TEL 03-5212-3411 FAX 03-5212-3414

E-mail genki@rpi.co.jp